

# 2025年度 環境経営レポート

(対象期間:2025年1月～2025年12月)

株式会社ジャバラ



発行日： 2026年 2月 1日



## □目次

環境経営方針	1
環境理念	
活動方針	
1. 組織の概要	2
(1) 名称及び代表者名	
(2) 所在地	
(3) 環境管理責任者及び担当者の氏名と連絡先	
(4) 事業内容	
(5) 事業の規模	
(6) 事業年度	
(7) 会社沿革	
2. エコアクション21認証・登録範囲	4
3. 環境経営システム組織（ジャバラ／ジャバラワークス）	5
4. 主な環境負荷の実績	6
5. 環境経営目標	7
全社目標	
(1) たつの工場	
(2) 本社・大阪営業所	
(3) 東京営業所	
6. 主要な環境経営計画の内容及び取組結果の評価並びに次年度の環境経営計画	10
全社	
(1) たつの工場	
(2) 本社・大阪営業所	
(3) 東京営業所	
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	14
8. 代表者による全体の評価と見直し・指示	15
全体の評価と抱負	
見直し・指示	
9. 活動状況	16
(1) 環境貢献・環境配慮製品	
(2) 省エネ・省資源活動	
(3) 廃棄物の分別・リサイクル活動	
(4) 防火訓練・清掃活動	

# 株式会社ジャバラ 環境経営方針

## <環境理念>

株式会社ジャバラは、より良い未来環境の実現に向けて、企業市民としての良識をもって、環境改善に貢献するジャバラ製品を創出するとともに、事業活動を通じて環境負荷の低減に取り組みます。

## <活動方針>

1. 次の事項について、環境経営目標・環境経営計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的改善に努めます。
  - 1) 資源消費量・二酸化炭素排出量の削減
  - 2) 廃棄物の3R（減量、再使用、再生利用）
  - 3) 有害物質の低減
  - 4) グリーン購入（環境負荷低減型資材の購入）
  - 5) 環境に配慮した製品の開発と販売促進
2. 環境関連法令と諸規則を順守します。

制定日：2010年4月 1日

改定日：2022年2月25日

代表取締役 藤中 理香



# 1. 組織の概要

## (1) 名称及び代表者名

株式会社ジャバラ／株式会社ジャバラワークス  
 代表取締役社長 藤中 理香



J A B A F L E X

## (2) 所在地

株式会社ジャバラ 本社・大阪営業所 〒541-0053 大阪府中央区本町3-5-7(御堂筋本町ビル)

株式会社ジャバラ 東京営業所 〒110-0016 東京都台東区台東4-5-1(タマタビル)

株式会社ジャバラ 技術部、株式会社ジャバラワークス 〒679-4016 兵庫県たつの市揖西町南山3-8

※エコアクション21対象範囲は、上記4サイト全てとする。

## (3) 環境管理責任者及び担当者の氏名と連絡先

環境経営総括責任者 代表取締役社長 藤中 理香

環境管理責任者 ジャバラワークス 製造部長 青木 幸子

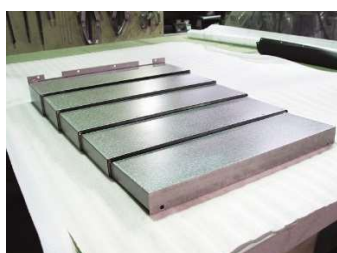
Tel : 0791-64-8200 Fax : 0791-64-8201 E-Mail : aoki@jabara.jp

## (4) 事業内容

輸送機器用、工作機械用及び産業機器用のジャバラ製品の設計・製造・販売



キャノピーフード



テレスコカバー



スクリューカバー



免震継手



折りジャバラ



巻取りカバー

## (5) 事業の規模

製品出荷額 3,074百万円 (2025年度実績)

	ジャバラ 本社・大阪営業所	ジャバラ 東京営業所	ジャバラワークス
従業員	14名	6名	108名
延べ床面積	212.04 m <sup>2</sup>	118.54 m <sup>2</sup>	5,805.75m <sup>2</sup>
敷地面積	-	-	11,993m <sup>2</sup>

(6) 事業年度 2025年 1月～12月

(7) 会社沿革

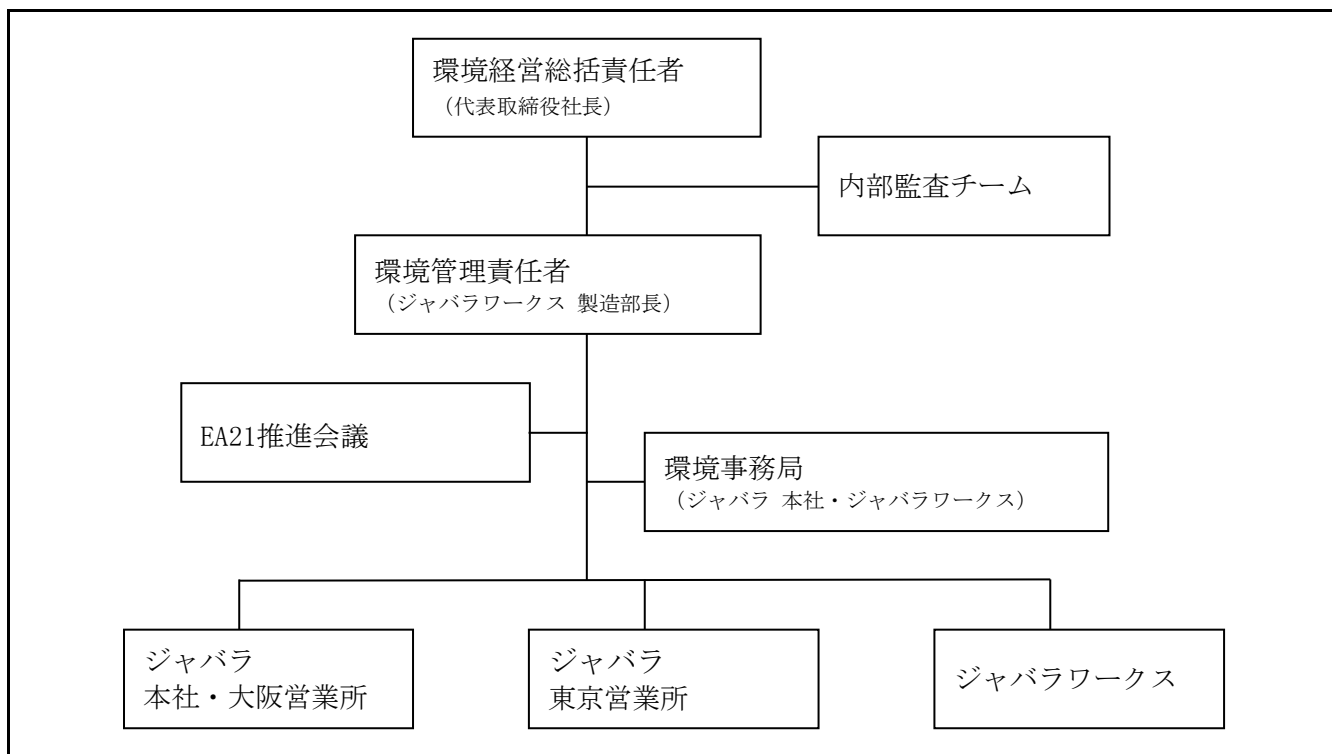
- 1961年 藤中基弘が工業用ジャバラメーカーとして大阪に創業（資本金300万円）  
三菱重工(株)京都精機製作所他に工業用ジャバラ製品の納入開始
- 1964年 東京営業所開設
- 1965年 名古屋営業所開設
- 1968年 日本国有鉄道（現JR各社）に鉄道車両用タワミ風道を納入開始
- 1971年 たつの工場開設
- 1973年 フェリーバス用ジャバラを開発、東京湾に納入開始
- 1978年 橋梁配水管継手ドレシーが建設省（現国交省）の基本設計図書に採用される
- 1981年 建設省実験プロジェクトとしてダム水質浄化システムを開発、緑川ダムに試作機納入
- 1984年 たつの工場（製造・技術） 新社屋完成  
一庫ダムに水質浄化システム深層曝気装置納入、以降布目ダム他多数に納入
- 1985年 資本金2,000万円に増資  
JR各社他に鉄道車両用連結ホロ納入開始  
空港用キャノピー（特許第1688197号）を開発、主要空港に納入開始  
ウェルダー加工ジャバラの生産開始
- 1986年 本四架橋向けにローラシュー用ステンレス製テレスコカバー、ゴム製樋を納入開始
- 1988年 倉庫レスパレットカバー（特許第1881353号）を開発、製鉄所に納入開始
- 1989年 関西新空港向け連絡橋用、ゴム製樋・支承カバー納入開始  
電動開閉式大型倉庫レスパレットカバーを開発、製鉄所に納入開始
- 1990年 テレスコピックカバー生産設備更新、工作機械向けジャバラの本格増産体制に入る
- 1994年 グラス向けLRT用連結ホロ納入開始  
関西新空港ターミナルビル北工区・南工区縦樋用継手及びキャニオンEXP納入  
セメント会社向け船積シュート開発・全国展開販売開始
- 1998年 ニュージャー向けLRT用連結ホロ納入開始
- 1999年 さいたまスーパーアリーナ向け可動式出入り口用ホロ及び  
カーテンウォール貫通部シール用ジャバラ（東西）を納入  
発電所向けフライアッシュ船積シュート販売開始
- 2001年 JR東海次期新幹線（N700系）用「全周ホロ」の開発に着手  
東京工業大学 広瀬研究室に人命救助用ヘビ型ロボット用間接カバー試作納入開始
- 2002年 液晶テレビ工場向けクリーンルーム用クレーンワイヤーカバー納入開始
- 2003年 台湾新幹線用タワミ風道納入  
小里川ダムに放流口水質分離システム納入
- 2004年 国土交通省認定の免震用ジャバラを開発、大阪府八尾市民病院他に納入開始
- 2005年 中国鉄道高速列車CRH2型用タワミ風道納入
- 2006年 マニラ向けLRT用連結ホロ納入開始  
ISO9001：2000認証取得
- 2007年 JR東海N700系用「全周ホロ」の生産開始  
藤中基弘 会長に就任、替わって沖島光男が社長に就任

- 2008年 煙道用免震継手の耐熱製品を開発・販売開始
- 2010年 SUS薄板巻取り・低摺動抵抗テレスコカバー開発、JIMTOF2010出展  
エコアクション21認証取得
- 2011年 N700系用全周ホロの開発功績により若松久が兵庫県発明賞を受賞
- 2012年 XY軸テレスコカバー開発
- 2013年 横型マシニング用xyModularCoverシリーズ開発・販売開始  
四面巻取りカバー開発
- 2014年 たつの新工場へ移転  
JR東海「東海道新幹線50周年」にあたり、永年に亘る安全安定輸送への貢献に対し  
感謝状を受贈  
道路向け資材として壁高欄遊間部伸縮カバーを開発・納入開始
- 2016年 東京営業所移転  
本社・大阪営業所を大阪府大阪市中央区本町に移転  
クリーンセンター向け分級機ジャバラ開発  
千葉県某クリーンセンターへ試験導入開始
- 2017年 9月 太陽光発電システム第一基・第二基設置
- 2018年 藤中理香 社長に就任  
11月 たつの工場B棟建設
- 2019年 1月 太陽光発電システム第三基設置  
伸縮式誘導通路（PBR）を中部空港に納入開始
- 2020年 ジャバラフェロークラブ（OB会）をたつの工場に設置  
従業員持株会を発足、資本金4,500万円に増資
- 2021年 港湾用の伸縮式通路を清水港に納入
- 2022年 3月 太陽光発電システム第四基設置
- 2023年 1月 太陽光発電システム第五基設置  
（環境省ホームページ内「太陽光発電の導入支援サイト」の「再エネ導入事例」として  
「ソーラーカーポートの導入事例集」に掲載されました）
- 2024年 名古屋営業所閉鎖
- 2025年 10月1日 グループ会社化により、本社・営業・技術部門が「ジャバラ」、  
製造部門が「ジャバラワークス」として分社

## 2. エコアクション21認証・登録範囲

認証・登録事業者	株式会社ジャバラ 大阪府大阪市中央区本町3-5-7
対象事業活動	運送機器用、工作機械用及び産業機器用のジャバラ製品の設計・製造・販売
対象事業所	株式会社ジャバラ 本社・大阪営業所、技術部、東京営業所 株式会社ジャバラワークス

### 3. 環境経営システム組織（ジャバラ／ジャバラワークス）



	役割・責任・権限
環境経営総括責任者 代表取締役社長	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営に関する統括責任</li> <li>環境経営システムの運営に必要な、人材、設備、その他リソースの配置・提供</li> <li>環境管理責任者の任命</li> <li>経営の課題とチャンスの明確化</li> <li>環境経営方針の策定・見直し及び全従業員への周知</li> <li>環境経営目標・環境経営計画の承認</li> <li>外部監査・内部監査計画の承認</li> <li>代表者による全体の評価と見直し・指示</li> <li>環境経営レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者 ジャバラワークス 製造部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>「環境関連法規等取りまとめ表」の承認</li> <li>外部監査・内部監査の計画の確認</li> <li>環境経営計画書・実績書の承認</li> <li>環境経営活動の取組結果を代表者へ報告 (代表者による見直し・指示記録の「見直しに必要な情報」欄の記載)</li> <li>環境経営レポートの確認</li> </ul>
環境事務局 ジャバラ 本社総務部 ジャバラワークス 事務管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境管理責任者の補佐、EA21推進会議の事務局</li> <li>環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>外部監査・内部監査の計画・推進・実施（内部監査チーム）</li> <li>環境関連法規順守状況の確認</li> <li>「環境経営目標」・「環境経営計画書」の取りまとめと実績集計</li> <li>環境への負荷の自己チェック表の取りまとめ</li> <li>環境経営レポートの取りまとめ、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）</li> </ul>
部門責任者 各営業所責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>自部門の環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施</li> <li>自部門の環境経営システムの実施</li> <li>自部門への環境経営方針の周知</li> <li>自部門の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>自部門に関連する環境経営目標及び環境経営計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>特定された項目の手順書作成及び運用管理</li> <li>自部門の特定された緊急事態への対応手順書作成、テスト・訓練・記録</li> <li>自部門の問題点の発見、是正・予防処置</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営方針の理解、環境への取組の重要性を自覚</li> <li>決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営活動へ参加</li> </ul>

#### 4. 主な環境負荷の実績

(2023年～2025年 実績)

環境負荷項目	単位	2023年度	2024年度	2025年度
1) 二酸化炭素総排出量全社合計	kg-CO <sub>2</sub>	422,510	399,938	431,411
たつの工場	kg-CO <sub>2</sub>	401,957	382,884	411,069
本社・大阪営業所	kg-CO <sub>2</sub>	11,144	12,309	15,279
東京営業所	kg-CO <sub>2</sub>	5,244	4,745	5,063
名古屋営業所	kg-CO <sub>2</sub>	4,165	-	-
・電力による排出量全社合計	kg-CO <sub>2</sub>	371,007	345,447	373,995
	kWh	753,058	701,011	758,944
たつの工場	kg-CO <sub>2</sub>	359,634	337,874	366,057
	kWh	729,481	685,343	742,510
内訳： 購入電力	kg-CO <sub>2</sub>	359,634	337,874	366,057
	kWh	729,481	685,343	742,510
売電	kg-CO <sub>2</sub>	(73,591)	(91,915)	(93,242)
	kWh	(149,271)	(186,441)	(189,131)
※2023年度より、たつの工場の電力に関して売電分を相殺しない使用量を実績値としている				
本社・大阪営業所	kg-CO <sub>2</sub>	4,166	3,809	3,846
	kWh	8,451	7,727	7,801
東京営業所	kg-CO <sub>2</sub>	4,236	3,764	4,092
	kWh	8,937	7,941	8,633
名古屋営業所	kg-CO <sub>2</sub>	2,971	-	-
	kWh	6,189	-	-
・化石燃料による排出量全社合計	kg-CO <sub>2</sub>	51,503	54,491	57,416
ガソリン	ℓ	6,496	6,995	7,696
軽油	ℓ	14,082	14,789	15,291
たつの工場（ガソリン）	kg-CO <sub>2</sub>	5,903	6,762	5,465
	ℓ	2,543	2,912	2,354
（軽油）	kg-CO <sub>2</sub>	36,420	38,248	39,547
	ℓ	14,082	14,789	15,291
本社・大阪営業所（ガソリン）	kg-CO <sub>2</sub>	6,978	8,500	11,433
	ℓ	3,005	3,661	4,924
東京営業所（ガソリン）	kg-CO <sub>2</sub>	1,008	981	971
	ℓ	434	422	418
名古屋営業所（ガソリン）	kg-CO <sub>2</sub>	1,194	-	-
	ℓ	514	-	-
2) 産業廃棄物排出量合計	kg			
たつの工場		53,080	49,520	48,821

環境負荷項目	単位	2023年度	2024年度	2025年度
3) 一般廃棄物排出量全社合計	kg	1,010	940	884
たつの工場	kg	708	678	642
本社・大阪営業所	kg	121	127	125.4
東京営業所	kg	137	135	116.8
名古屋営業所	kg	44	-	-
4) 水使用量	m <sup>3</sup>			
たつの工場		1,159	1,304	1,216
5) 化学物質使用量（トルエン）	kg			
たつの工場		2,921	5,117	5,036

注) 購入電力の二酸化炭素排出量及び売電の太陽光発電による二酸化炭素排出削減量は、平成29年12月環境省・経産省公表の調整後排出係数を使用して算出

（関西電力(株)0.493kg-CO<sub>2</sub>/kWh、東京電力エナジーパートナー(株)0.474kg-CO<sub>2</sub>/kWh）。

各営業所では一般廃棄物発生量のほとんどがコピー紙の為、コピー用紙の購入量実績から推定

（A4サイズ500枚にて約2.1kgに換算）。排水量は工場のみ計測可。営業所は家賃に含まれている。

2020年度から灯油ストーブの使用を禁止。

## 5. 環境経営目標

### 全社目標

環境経営目標項目	2025年度	2026年度	2027年度
二酸化炭素排出量合計	410,547 kg-CO <sub>2</sub>	379,563 kg-CO <sub>2</sub>	367,452 kg-CO <sub>2</sub>
電力による排出量	356,068 kg-CO <sub>2</sub>	327,734 kg-CO <sub>2</sub>	316,205 kg-CO <sub>2</sub>
	722,586 kWh	665,107 kWh	641,717 kWh
化石燃料による排出量	54,479 kg-CO <sub>2</sub>	51,829 kg-CO <sub>2</sub>	51,247 kg-CO <sub>2</sub>
	22,011 L	20,956 L	20,720 L
一般廃棄物排出量	794 kg	715 kg	663 kg

※ 目標購入電力の二酸化炭素排出係数は、平成29年12月環境省・経産省公表の調整後排出係数を使用（関西電力(株)0.493kg-CO<sub>2</sub>/kWh、東京電力エナジーパートナー(株)0.474kg-CO<sub>2</sub>/kWh）

※ 営業所化石燃料は入替え車種の燃費（プリウス→フィールダーで8.5%低下）低下を台数分目標値に加算（維持コストが高いので削減するため、また、積載量を増やすために入替）

※ 廃コピー紙はアスクルリサイクルペーパー 四六判換算（四六判紙1,000枚=57.6kg）よりA4紙1枚=4.2gとして計算

※ たつの工場の実績値は生産に大きく左右されるため生産高当たりの排出量について目標値を設定しており、2025年度は2024年度と同じ生産高と仮定、2026年度と2027年度は2025年度と同じ生産高と仮定して年間排出量目標値を算出

(1) たつの工場（株式会社ジャバラ 技術部・株式会社ジャバラワークス）

環境経営目標項目		単位	2019年度 実績（基準 値）	2025年度 目標	2026年度 目標	2027年度 目標
二酸化炭素 排出量の 削減	電力	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	124.531	108.342 (87%)	104.606 (84%)	100.870 (81%)
	化石燃料	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	14.817	13.336 (90%)	13.187 (89%)	13.039 (88%)
	(ガソリン)	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	3.386	3.048 (90%)	3.013 (89%)	2.980 (88%)
	(軽油)	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	11.431	10.288 (90%)	10.174 (89%)	10.059 (88%)
産業廃棄物排出量の削減		kg /百万円	21.662	18.196 (84%)	17.763 (82%)	17.330 (80%)
一般廃棄物排出量の削減		kg /百万円	0.288	0.173 (60%)	0.158 (55%)	0.144 (50%)
水使用量の削減		m <sup>3</sup> /百万円	0.490	0.446 (91%)	0.441 (90%)	0.436 (89%)
省エネ・省資源チェック 評価点の向上		点	参考値 5,246 (2019年)	1月評価点より改善 (満点：3,600内)	1月評価点より改善 (満点：3,600内)	1月評価点より改善 (満点：3,600内)
化学物質（トルエン）の 使用量の削減		kg /百万円	1.595 (2024年)	1.516 (95%)	1.436 (90%)	1.356 (85%)
環境配慮型・環境貢献型 製品の開発		件	12 (毎月1件)	6 (1件 / 2ヶ月)		

※ 2018年11月にB棟増設。2019年を基準年度とする

※ トルエン使用量の削減：2024年1月より集計するトルエン含有物を3項目追加したため、2024年を基準値とする

※ 各年度目標欄のカッコ内パーセンテージは、基準値に対する比率を示す

※ たつの工場の実績値は生産に大きく左右されるため、生産高当たりの目標値を設定

※ 環境配慮型及び環境貢献型製品の開発と認める定義の厳格化に伴い目標数を調整

## (2) 本社・大阪営業所

環境経営目標項目		単位	2017年度 実績（基準 値）	2025年度 目標	2026年度 目標	2027年度 目標
二酸化炭素 排出量の 削減	電力	kg-CO <sub>2</sub>	7,062 (14,324kWh)	4,449 (63%) (9,024kWh)	4,378 (62%) (8,881kWh)	4,308 (61%) (8,738kWh)
	化石燃料 (ガソリン)	kg-CO <sub>2</sub>	11,444 (4,9290)	10,414 (91%) (4,4850)	10,299 (90%) (4,4360)	10,185 (89%) (4,3870)
コピー用紙消費量の削減		枚	55,360 (232.5kg)	28,234 (51%) (118.6kg)	27,126 (49%) (113.9kg)	26,019 (47%) (109.3kg)
省エネ・省資源チェック 評価点の向上		点	参考値 1,188 (2017年)	1月評価点より改善 (満点：1,200内)	1月評価点より改善 (満点：1,200内)	1月評価点より改善 (満点：1,200内)
環境配慮型・環境貢献型 製品開発に関する情報の収集		件	年間2件以上	一般営業部門 1件／年以上 マネジメントレビューにて発表		

※ 2016年12月移転。2017年を基準年度とする

※ 各年度目標欄のカッコ内パーセンテージは、基準値に対する比率を示す

※ 化石燃料：入替え車種の燃費（プリウス→フィールダーで8.5%低下）低下を台数分目標値に加算  
2018年度 4台中1台、6月に2台

（維持コストが高いので削減するため、また、積載量を増やすために入替）

※ 環境配慮型及び環境貢献型製品の開発と認める定義の厳格化に伴い目標数を調整

## (3) 東京営業所

環境経営目標項目		単位	2016年度 実績（基準 値）	2025年度 目標	2026年度 目標	2027年度 目標
二酸化炭素 排出量の 削減	電力	kg-CO <sub>2</sub>	5,610 (11,836kWh)	4,152 (74%) (8,759kWh)	4,095 (73%) (8,640kWh)	4,039 (72%) (8,522kWh)
	化石燃料 (ガソリン)	kg-CO <sub>2</sub>	1,489 (6410)	1,295 (87%) (5580)	1,281 (86%) (5510)	1,266 (85%) (5450)
コピー用紙消費量の削減		枚	44,030 (184.9kg)	29,060 (66%) (122.1kg)	28,179 (64%) (118.4kg)	27,299 (62%) (114.7kg)
省エネ・省資源チェック 評価点の向上		点	参考値 1,149 (2016年)	1月評価点より改善 (満点：1,200内)	1月評価点より改善 (満点：1,200内)	1月評価点より改善 (満点：1,200内)
環境配慮型・環境貢献型 製品開発に関する情報の収集		件	年間2件以上	一般営業部門・特需営業部門各1件／年以上 マネジメントレビューにて発表		

※ 2016年2月移転。2016年を基準年度とする

※ 各年度目標欄のカッコ内パーセンテージは、基準値に対する比率を示す

※ 環境配慮型及び環境貢献型製品の開発と認める定義の厳格化に伴い目標数を調整

## 6. 主要な環境経営計画の内容及び取組結果の評価並びに次年度の環境経営計画

期間（2025年1月～12月）12ヶ月間の目標とその実績についての評価

### 全社（全社目標に対する達成状況）

環境経営計画の取組内容	達成状況 (1月～12月)		(単位)	目標に対する実績評価
	目標	実績 達成度		
二酸化炭素排出量合計	410,547	431,411 95%	(kg-CO <sub>2</sub> )	×：目標未達成
電力による排出量	356,068	373,995 95%	(kg-CO <sub>2</sub> )	×：目標未達成
化石燃料による排出量	54,479	57,416 95%	(kg-CO <sub>2</sub> )	×：目標未達成
一般廃棄物排出量	794	884 90%	(kg)	×：目標未達成

### (1) たつの工場

環境経営計画の取組内容	達成状況 (1月～12月)		(単位) 基準年度比	目標に対する実績評価と 次年度の環境経営計画	
	基準値	目標 実績 達成度			
<b>電力の二酸化炭素排出量削減</b> ・計画残業をいかに電力の削減 ・使用量を月初に掲示し節電意識を高める ・空調機温度制御実施 (夏18℃、冬24℃) ・昼休憩などで必要ない電力は消すことを周知徹底する	基準値	124.531	(kg-CO <sub>2</sub> /百万円)	<b>×：目標未達成</b> ・計画残業をいかに電力の削減 ・使用量を月初に掲示し節電意識を高める ・空調機温度制御実施 (夏18℃、冬24℃) ・昼休憩などで必要ない電力は消すことを周知徹底する ・残業時に残業をしていない部署は蓄光テープ等を活用して通路も消灯する	
	目標	108.342	87%		
<b>化石燃料の二酸化炭素排出量削減</b> ・エコドライブと燃費管理の継続 ・同じ方向への引取りは1度で済ませる ・運行記録表に燃費を記録し、ドライバーに燃費を意識させる	ガソリン	実績	119.939	96%	<b>◎：次年度目標以上達成</b> ・エコドライブと燃費管理の継続 ・同じ方向への引取りは1度で済ませる
		達成度	90%		
		基準値	3.386	(kg-CO <sub>2</sub> /百万円)	
	軽油	目標	3.048	90%	
実績		1.791	53%		
達成度		170%			
基準値	11.431	(kg-CO <sub>2</sub> /百万円)	<b>×：目標未達成</b> ・エコドライブと燃費管理の継続 ・同じ方向への引取りは1度で済ませる		
目標	10.288	90%			
実績	12.958	113%			
達成度	79%				

環境経営計画の取組内容	達成状況		(単位) 基準年度比	目標に対する実績評価と 次年度の環境経営計画
	(1月～12月)			
<b>産業廃棄物排出量の削減</b> ・廃棄ルールの策定と徹底 ・ゴミの分別 ・主材料の歩留まり向上 ・パトロールの実施 ・製造現場での産廃削減活動の推進	基準値	21.662	(kg-CO <sub>2</sub> /百万円)	<b>◎：次年度目標以上達成</b> ・廃棄ルールの策定と徹底 ・ゴミの分別 ・主材料の歩留まり向上 ・パトロールの実施 ・製造現場での産廃削減活動の推進 ・廃材の再利用検討
	目標	18.196	84%	
	実績	15.996	74%	
	達成度	114%		
<b>一般廃棄物排出量の削減</b> ・紙の印刷枚数低減活動 ・定期的なパトロール(1回/月)を実施し、ルールが守られているかを監視する ・前年度の結果を踏まえ、掲示する ・一般ゴミの場所別廃棄量の見える化	基準値	0.288	(kg-CO <sub>2</sub> /百万円)	<b>×：目標未達成</b> ・定期的なパトロール(1回/月)を実施し、ルールが守られているかを監視する ・前年度の結果を踏まえ、掲示する ・一般ゴミの場所別廃棄量の見える化 ・ゴミ圧縮方法の検討
	目標	0.173	60%	
	実績	0.210	73%	
	達成度	82%		
<b>水使用量の削減</b> ・給茶機の飲み残しを無くす ・掃除の際にはバケツなどを使用する	基準値	0.490	(m <sup>3</sup> /百万円)	<b>◎：次年度目標以上達成</b> ・給茶機の飲み残しを無くす ・掃除の際にはバケツなどを使用する
	目標	0.446	91%	
	実績	0.398	81%	
	達成度	112%		
<b>省エネ・省資源チェック評価点向上</b> ・昼休みの消灯の徹底 ・デジタル化推進による紙使用量の削減 ・分別廃棄の徹底をする ・残業、休日出勤の削減による照明の消灯 ・裏紙を使える書類に関しては再使用を推進 ・空調設備使用ルール周知による電力の削減 ・ノ残業デーの徹底	基準値	2,472	(点)	<b>○：目標達成</b> ・昼休みの消灯の徹底 ・デジタル化推進による紙使用量の削減 ・分別廃棄の徹底をする ・残業、休日出勤の削減による照明の消灯 ・裏紙を使える書類に関しては再使用を推進 ・空調設備使用ルール周知による電力の削減 ・ノ残業デーの徹底
	目標	2,484	100%	
	実績	2,590	105%	
	達成度	104%		
<b>化学物質（トルエン）の使用量削減</b> ・現場パトロールを実施して使用状況を把握する ・容器の蓋閉め活動を推進して損失を減らす ・溶剤フリージャバラの製品設計に取り組む ・代替可能な溶剤を探索・評価する ・トルエンフリーの接着剤の検証を行う	基準値	1.595	(kg-CO <sub>2</sub> /百万円)	<b>×：目標未達成</b> ・現場パトロールを実施して使用状況を把握する ・容器の蓋閉め活動で損失を減らす ・溶剤フリージャバラの製品設計に取り組む ・代替可能な溶剤を探索・評価する ・トルエンフリーの接着剤の検証を行う ・対応人員を増加して上記を加速させる
	目標	1.516	95%	
	実績	1.650	103%	
	達成度	92%		
<b>環境配慮型・環境貢献型製品開発</b> ・CO2を低減させる製品の開発(新材料・製造方法等) ・廃棄原材料の低減(スポンジ等) ・製品製作・工程内検査のしやすい設計への改良 ・その他環境に配慮した設計(軽量化・長寿命化等) ・グリーン調達(部材の選定) ・車両・スチール・円筒 各1件以上の実施	基準値	12	(件)	<b>×：目標未達成</b> ・CO2を低減させる製品の開発(新材料・製造方法等) ・廃棄原材料の低減(スポンジ等) ・製品製作・工程内検査のしやすい設計への改良 ・その他環境に配慮した設計(軽量化・長寿命化等) ・グリーン調達(部材の選定) ・車両・スチール・円筒 各1件以上の実施
	目標	6	50%	
	実績	3	25%	
	達成度	50%		

注) ○：目標達成 ◎：次年度目標以上達成 ×：未達成 として記入

※ 今後もこの取組みを継続していきます

※ たつの工場の実績値は生産に大きく左右されるため、生産高当たりの目標値・使用量にて評価

※ 省エネ・省資源チェックは当年1月の評価点以上になるよう改善することが目標のため、年間の

基準値は2025年1月の評価点×12ヶ月、目標値は(2025年1月の評価点+1点)×12ヶ月としている

## (2) 本社・大阪営業所

環境経営計画の取組内容	達成状況 (1月～12月)		(単位) 基準年度比	目標に対する実績評価と 次年度の環境経営計画
	基準値	実績		
<b>電力の二酸化炭素排出量削減</b> ・電気使用時間、使用量の短縮 1) ノー残業デー又は直帰週2日実施検討(試) 2) 電灯間引き継続 3) 残業時間平均週8時間以内	基準値	7,062	(kg-CO <sub>2</sub> )	<b>◎：次年度目標以上達成</b> ・電気使用時間、使用量の短縮 1) PC・モニター、スリープ設定導入 2) 電灯間引き継続 3) 残業時間平均週5時間以内 4) ピークカット16時～の消費抑制
	目標	4,449	63%	
	実績	3,846	54%	
	達成度	116%		
<b>化石燃料の二酸化炭素排出量削減</b> ・車無使用日(月5回)設定 ・遠方顧客のリモート打ち合わせ推奨 ・エコカー範囲での運転推奨	基準値	11,444	(kg-CO <sub>2</sub> )	<b>×：目標未達成</b> ・車無使用日(月5回)設定 ・顧客のリモート打ち合わせ推奨 ・エコカー範囲での運転推奨
	目標	10,414	91%	
	実績	11,433	100%	
	達成度	91%		
<b>コピー用紙消費量の削減</b> ・販促資料についてはPDF配布を活用 ・送受信のメール化、FAX削減 ・複数枚印刷時は両面コピー	基準値	55,360	(枚)	<b>×：目標未達成</b> ・販促資料についてはPDF配布を活用 ・送受信のメール化、FAX削減 ・複数枚印刷時は両面コピー
	目標	28,234	51%	
	実績	28,500	51%	
	達成度	99%		
<b>省エネ・省資源チェック評価点向上</b> ・19時以降の残業日数：時間を意識した効率化により、前年比の50%減 ・社用車の適正使用：移動時に極力電車を使用し、移動時のエネルギーを削減 ・省資源・廃棄物の抑制：不要な印刷は避け、受取郵送物は停止	基準値	792	(点)	<b>○：目標達成</b> ・19時以降の残業日数削減 ・社用車の適正使用 移動時は公共交通機関を使用し社有車によるエネルギー削減 ・省資源・廃棄物の抑制 不要な印刷の削減。ペーパーレス化促進
	目標	804	102%	
	実績	918	116%	
	達成度	114%		
<b>環境配慮型・環境貢献型製品開発に関する情報の収集</b> ・環境負荷を低減する製品についてラインナップ会議の計画に入れ開発を進める(省エネ・静音化、安全化等) ・廃棄原材料の低減(スポンジ等) ・環境に配慮した設計への変更(軽量、長寿命化)	基準値	2	(件)	<b>×：目標未達成</b> ・環境負荷を低減する製品についてラインナップ会議の計画に入れ開発を進める(省エネ・静音化、安全化等) ・廃棄原材料の低減(スポンジ等) ・環境に配慮した設計への変更(軽量、長寿命化)
	目標	1	50%	
	実績	0	0%	
	達成度	0%		

注) ○：目標達成 ◎：次年度目標以上達成 ×：未達成 として記入

※ 今後もこの取組みを継続していきます

※ 省エネ・省資源チェックは当年1月の評価点以上になるよう改善することが目標のため、年間の基準値は2025年1月の評価点×12ヶ月、目標値は(2025年1月の評価点+1点)×12ヶ月としている

(3) 東京営業所

環境経営計画の取組内容	達成状況 (1月～12月)		(単位) 基準年度比	目標に対する実績評価と 次年度の環境経営計画
	基準値	実績	達成度	
<b>電力の二酸化炭素排出量削減</b> ・エアコンの適正使用 ・クール&ウォームビズの実施 ・蛍光灯の間引き継続 ・19時残業ター、19時退社の徹底 ・複合機等の待機電力の削減	基準値	5,610	(kg-CO <sub>2</sub> )	<b>◎：次年度目標以上達成</b> ・エアコンの適正使用 ・クール&ウォームビズの実施 ・蛍光灯の間引き継続 ・19時残業ター、19時退社の徹底 ・複合機等の待機電力の削減
	目標	4,152	74%	
	実績	4,092	73%	
	達成度	101%		
<b>化石燃料の二酸化炭素排出量削減</b> ・レンタカー・カーシェアはエコカーを使う ・同一地域への顧客訪問はまとめて行う ・同行時は最寄り駅でピックアップしてもらう ・車内のエアコンは適正温度で使用	基準値	1,489	(kg-CO <sub>2</sub> )	<b>◎：次年度目標以上達成</b> ・レンタカー・カーシェアはエコカーを使う ・同一地域への顧客訪問はまとめて行う ・同行時は最寄り駅でピックアップしてもらう ・WEB会議利用で使用を減らす
	目標	1,295	87%	
	実績	971	65%	
	達成度	133%		
<b>コピー用紙消費量の削減</b> ・社内申請書類のPDF化 ・客先EDIシステム通知データの電子保存 ・メールやクラウドを活用しての文書の共有	基準値	44,030	(枚)	<b>◎：次年度目標以上達成</b> ・社内申請書類のPDF化 ・客先EDIシステム通知データの電子保存 ・メールやクラウドを活用しての文書の共有
	目標	29,060	66%	
	実績	25,700	58%	
	達成度	113%		
<b>省エネ・省資源チェック評価点向上</b> ・カーシェア、レンタカーのエコカーの使用頻度を高める ・まとめ訪問による活動の効率化 ・PDF化等による印刷用紙削減 ・19時全員完全退社、水曜日定時退社	基準値	984	(点)	<b>○：目標達成</b> ・カーシェア、レンタカーのエコカーの使用頻度を高める ・まとめ訪問による活動の効率化 ・PDF化等による印刷用紙削減 ・19時全員完全退社、水曜日定時退社
	目標	996	101%	
	実績	1,037	105%	
	達成度	104%		
<b>環境配慮型・環境貢献型製品開発に関する情報の収集</b> ○2024年継続開発品の完成目標 ○客先からの要望、日々の営業の中から問題点・改良点を抽出し「ラインナップ」会議を通じて具現化する ・客先改善要望抽出 2件/月 (一人) ・開発品提案 1件/年 (一人)	基準値	4	(件)	<b>○：目標達成</b> ○2025年継続開発品の完成目標 ○客先からの要望、日々の営業の中から問題点・改良点を抽出し「ラインナップ」会議を通じて具現化する ・客先改善要望抽出 2件/月 (一人) ・開発品提案 1件/年 (一人)
	目標	2	50%	
	実績	3	75%	
	達成度	150%		

注) ○：目標達成 ◎：次年度目標以上達成 ×：未達成 として記入

※ 今後もこの取組みを継続していきます

※ 省エネ・省資源チェックは当年1月の評価点以上になるよう改善することが目標のため、年間の基準値は2025年1月の評価点×12ヶ月、目標値は(2025年1月の評価点+1点)×12ヶ月としている

## 7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	遵守すべき主な要求事項	評価
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（廃プラ、木屑、金属屑等）の適正処理	遵守
騒音規制法	空気圧縮機、送風機、液圧プレス、機械プレス等特定施設の届出、騒音基準（昼間70dB、夜間60 dB）	遵守
振動規制法	空気圧縮機、送風機、液圧プレス、機械プレス等特定施設の届出、振動基準（昼間65dB、夜間60 dB）	遵守
P R T R法	特定化学物質（トルエン等）排出量の届出	遵守
消防法	危険物（有機溶剤）の適正管理、火災報知機・消火栓の定期点検	遵守
フロン排出抑制法	フロン使用機器の適正な管理 定期点検及び記録の保管（業務用空調機等）	遵守
大気汚染防止法	VOC規制（乾燥の用に供する施設）の遵守	遵守
悪臭防止法	トルエン、酢酸エチル等の適正管理	遵守

2026年1月23日現在、2024年度に引き続き環境関連法規制等の遵守状況を確認した結果、遵守されていることを確認しました。なお、2025年度、環境に関する関連当局及び隣接住民からの指導及び訴訟苦情等はありませんでした。

## 8. 代表者による全体の評価と見直し・指示

### 全体の評価と抱負

2025年度は、国内外でエネルギー・環境政策の不確実性が高まる一年であった。地政学的リスクやエネルギー価格の変動により温暖化対策の足取りが鈍る一方、気候変動の影響は顕在化しており、企業が主体的に環境責任を果たす重要性は一層高まっている。当社は外部環境に左右されることなく、環境負荷低減を着実に進めていく。

当年度は、省エネルギー・省資源活動が従来より日常業務に定着しており、ローテーション担当制や成果共有を通じて、全員参加型の環境活動として継続・深化している。既設太陽光発電設備の安定稼働により再エネ活用は進んでいるが、記録的な猛暑により空調稼働が増加し、電力消費量は当初想定を上回った。これは安全・品質確保のために必要な対応であり、今後はピーク電力抑制等により省エネルギー対策を強化していく。

一方、業務のデジタル化を進めているものの、省資源効果は十分に顕在化していない。会社のグループ化に伴う資料・規程整備の増加によりコピー用紙使用量が想定を上回り、紙資源削減の面で課題を残した。来年度は文書管理の電子化と共有基盤整備を進め、実効性ある省資源活動へと転換する。

環境配慮型・環境貢献型製品の開発は進展し、一部製品は顧客評価段階へ移行した。トルエン削減をはじめとする化学物質管理は難航しているが、2026年度は人員を増強し取り組みを加速する。

当社のエコアクション活動は経営活動の一部として定着しつつあり、今後も持続的な環境経営を推進していく。

### 見直し・指示

	項目	対象部署	指示
1	環境経営方針	なし	なし
2	環境経営目標	なし	なし
3	部署目標・活動計画	・製造部 ・技術部 ・システム管理室	生産指示・設計図面・業務帳票のデジタル化を進め、紙による配布を減少させること。これによりコピー用紙削減、印刷・配布工数削減、変更時の差し替えミス防止を図る。文書管理および共有基盤を整備し、規程類・説明資料の電子閲覧を標準化すること。
		・技術部 ・製造部	有機溶剤作業環境について、技術部門主導のもとプロジェクトメンバーで代替案を検討し、実効性ある改善策を立案・試行すること。
		・ラインナップ議長 ・営業所長 ・技術部	5年後のラインナップ活動で、各営業所が推進・達成できる環境・安全に資する製品開発を計画すること。
		・製造部	記録的猛暑による空調負荷増大を踏まえ、ピーク電力抑制運用等の対策を試行し、効果測定と改善を行うこと。
4	実施体制	なし	なし

2026年1月26日 代表取締役 藤中 佑太

## 9. 活動状況

### (1) 環境貢献・環境配慮製品

①新幹線 全周ホロ	②塩ビ→オレフィン製品	③耐久性向上シート製品
		

### (2) 省エネ・省資源活動

①太陽光発電設置	② エコカー導入	③工場内蛍光灯⇒LED
		

### (3) 廃棄物の分別・リサイクル活動

①産業廃棄物置場	②ダンボール紙分別置場	③産業廃リサイクル置場
		

### (4) 防火訓練・清掃活動

①防火訓練 避難訓練	②防火訓練 消火訓練	③工場外周 清掃活動
		